

番号	内容	ステータス		
		関係	年齢	所属
1	生きがいは、第6分科会コミュニティーと重複している。	在住	60代	区民会議
2	(分科会メンバーは)どの様な介護をしているのか		70代	区民会議
3	生きがいは、自分自身で見つけていくことが必要		70代	区民会議
4	乳幼児を元気な高齢者が扱ったり、育児の終わった母親世代が援助の必要な高齢者の面倒を見ることはできないか。	在住		1分科会 笹笥地区協議会
5	子育て中のお母さんや働きざかりのお父さんの生きがいについてもアピールしてほしい。	在住		1分科会 笹笥地区協議会
6	子ども、子育て中の親、外国人のバリアフリーも考えてほしい	在住		1分科会 笹笥地区協議会
7	大変力強い、かつ暖かい訴えと報告感動しました	在住	50代	区民会議
8	とくに、生きがいについては、「互いに尊重」「マイナスをプラスにとらえる」「自分を活かす」「団塊の世代の生き方への提言」に説得力があった。第二の成人式もユニークな提案	在住	50代	区民会議
9	マンション住民との関わりは、今後も工夫が必要な課題	在住	50代	区民会議
10	こころのバリアフリーもおもしろい提言。本当に知らないことが多い。「偏見、選別、差別 排除」との発想への批判的分析が迫力があつた。これをさらに進めてほしい	在住	50代	区民会議
11	子どもに生きがい、夢と希望がない。これを問題にするべき。	在住	70代	区民会議
12	第1分科会のテーマと重なっている。 「良き市民」として育てられた子どもが、介護や福祉の担い手になるし、「こころと社会のバリアフリー」を持つことができる。			1分科会
13	地域コミュニティの再構築を含めて検討してほしい			6分科会
14	「誇れる新宿」とは何かも検討理念のベースとして検討してほしい			6分科会
15	民間と行政の間の連携情報が欲しい			4分科会
16	介護活動を支援する「介護事業銀行」の設立を			4分科会

当日パネルに記入いただいたご意見

介護

・ヘルパーや介護者の質の向上、利用者（高齢者や障害児・者など）の心によりそい、自立を支援できる志の高い指導、教育がもっと必要。営利のためのヘルパステーションは、もったきびしく研修を課すべきです。

公共施設等の待遇（区役所も）ヘルパーなどには、ユニバーサルサービスの研修を行うなどしてほしい。

本当に困っている人の心の支えになれる介護サービスや、地域の助け合いができるようになりたいです。

・とても共感しました。交流をしながらお互いをしりあい支えあう方法を身につけていく。そういう機会と場がたくさん必要です。そこには、高齢者も青年も子育ての方も、誰でもが入ってこられるようになるともっといいですね。

・いつかは介護受ける身です。よろしく

・認知症介護者の支援の充実

・地域コミュニケーションセンター。新たな大人の文化 ふれあい

・介護保険の利用料をとられるので利用できない人がいるので、区の福祉として応援してあげてください。

・在宅介護を支える在宅介護事業所がつぶれ、ヘルパーが他の職業に転職しており、在宅介護が危ない。

・介護保険をもっと分かりやすく

・子どもや若い人が介護やおいについて身近に考えられるしくみ ボランティアや体験の場をもっと多く

・区や都の住宅は今、高齢者のひとりぐらしが多いです。その住宅ごとにケアができるコーナーがあれば良いと思います。たとえば、浴場、簡単な医療室、生活相談室など。

生きがい

・中高齢者の文化・スポーツ活動を身近で行える場を区と区民の連携、協働でつくることも

老いを健康で迎えられる大切なことだと思う。そのために学校施設の活用を考えて欲しい。

・地域で心豊かな生活を送るには地域に皆さんで集まって楽しいサロンを開きたい。

介護予防にも力を注ぎたい！

そのためには場所がほしい。

・上の意見に同感。現在デイサービスでプログラムメニューを実行していますが、地域で気軽に集まれる場所が欲しい。

・NPO,などの運営でいろいろなことが楽しくできるとよいですね。

・サロンを始めたけど、人が集まらないのが悩みです。「場所がほしい」という意見があるから、その人とうまく結びつくことができれば良い。

・結びつきたい人はいっぱいいるはずだと、結びつくための方法が分からなかったり、細かい手続を考えると一歩踏み出すのが難しいのでは？

結びつけてくれる人がいたら良いな。

・「場」が本当に必要です。場の提供者、作り出すことを形にしていきたいです。

・高齢者であっても、就業することも生きがいになるのでは・・・

・マンションの住民も、地域とのつながりを求めています。町会&コミュニティーとの話し合いができればなあと思っています。

・世代間交流 「高齢者の生きがい」「子どもの安全安心」

・団塊の世代です。少子化になり、学校も統合されているので、区の高齢者施設を沢山作ってください。

・身近に誰でも(バリアフリー)入ってこれる場を作りたい。ここがネットワークの発信、発源であり、どんどんつながっていけるようなくみとなっていきたい。

・高齢者クラブの名称をいきがいクラブ(例)のように名前を変えたらどうか

バリアフリー

・団塊の世代、高齢者等さまざまな人たちの意思がきちんと伝えられる（コミュニケーションがとれる）社会が実現できるように。

思いが伝わる社会 バリアがない社会と思う。

・子ども（乳幼児）子連れの親にとっても、物理的・心理的バリアがたくさんあることを忘れないで下さい。

また、外国人の方も同じです。

・中学生が視覚障害者とまち歩き体験。たくさんのことを学んだ。体験が大事です。

・だれもが人として生活しやすい社会「ユニバーサルデザイン」

・上の意見に同感です。東京都でもようやくユニバーサルデザインのまちづくりのパンフレットを出しました。新宿区でもぜひユニバーサルデザインをいかしたまちづくり（意識のユニバーサルデザインを含めて）を進めていってほしいです。

・誰もが当たり前前に社会に参画できる新宿区になればと思っています。

・年齢に関係なく障害を持つことは大変なことです。その人の身になって考え、一つひとつを改善していきたいですね。

・障害者自立支援法についての議論を深めてほしい。

・障害者、高齢者、いずれも「介護が必要」という共通点があるので、窓口を一緒にしたら便利だし、人でも少なくともすむのでは。

・誰でも何でも相談できるインフォメーションセンター（外国人、子ども、障害）

・一つの相談に一つの解答ではなく、多方面からのアイデア、解答、相談に関する多くの事項を含む解決方法を指導していただける方や窓口を作ってほしい。

あれもこれも一度に相談、解決方法がわかれば非常に安心できます。

・障害者といってもいろいろな障害があります。ひとくくりにするのではなく、まず一緒に触れていく姿勢が大切。障害者（知的を含む）から学ぶこともたくさんあり、人間として巾がひろがると思います。

・職安通り大久保通りの歩道は年配者が通れない状態になっています。自転車、看板を置かないようにすること。

・早稲田通りを始め、区は歩道の管理（不法設置物等）をまずきちんと行なってほしい。

その他

- ・誰でも付き合いができて、楽しく暮らせるまちづくり
- ・自分の特技を生かせるように。
- ・自分自身が変わらなければならない。
- ・広報面が足りない。
- ・地域に集まれる、身近に触れ合える場所を（500m以内といわずに）作って欲しい。
- ・インフォメーションセンターがあると良い。

例えば、障害児が入園、入学するためには福祉のみではなく教育機関など多分野に対して交渉しなくてはならず大変。それを一括して相談に乗ってくれる場所がほしい。

外国人の相談に乗るには、通訳が必要だが、それはボランティアセンターを活用するなどボランティアでやってくれる人を探していくという方法もあると思う。

<第6分科会の方>

・今回の発表では障害者自立支援法について触れられていなかった。しかしそれは切実な問題なので絶対触れてほしい。必ず介護者が入らないと生活できない人がいるのに、1割負担、時間制限ができてしまう。その人たちは「死ね」ということなのか、ということ。

「制度だから仕方ない」というのではなく、区民が真剣に考え、その人たちの生活をどうしていけるのか話し合っ、区に言っていく必要がある。制度がおかしくなっていくの止める力を発揮しなければ区民会議の意味がない。

くが今こういう方向性だから、それは受け入れた上で話し合うのでは、今までの諮問機関と変わらない「イエスマン」になってしまう。

実際に、例えば障害者福祉センターに出かけるなど、実態を見るということもやってほしい。